

## 新年のご挨拶

東日本紙器厚生年金基金  
理事長 北原茂樹

事業主・加入員の皆様には、希望に輝く新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。平成二六年の年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

皆様には、一昨年より、多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

また、昭和四三年二月設立より、基金の事業運営に格別のご理解ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、厚生年金基金制度見直しによる法律改正がある中、基金財政の健全化のため給付減額にご同意をいただくことができました。あらためて深くお礼を申し上げます。これにより基金財政の健全化に寄与する一定の基盤を整備することが可能となりました。今後、あらゆる状況で踏まえた対応等につきましては、委員会等において検討を重ね、安全かつ効率的な運用を行って参りますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

当基金は設立以来四五年を経過し、加入事業所448社・加入員8431人・年金受給者8994人・年金資産保有高289億円と成熟化が進んでおり、公的年金を補完する役割は重要性を増しております。基金及び業界を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、政府の「アベノミクス」の「三本の矢」①大胆な金融政策・②機動的な財政政策・③民間投資を喚起する成長戦略により、昨年度に引き続き、年末にかけ運用環境は改善されてきております。

厚生年金基金の存続にあたり極めて厳しい条件を課す厚生年金基金制度の見直しに係る改正法が昨年六月一九日に成立し、本年4月に施行予定とされておりますが、十二月末から本年一月までに発出される政省令も踏まえ、事業主様をはじめ・加入員の皆様・受給者の皆様にとりまして良い方向性となるよう慎重に検討を重ね取り組んで参ります。

今後とも皆さまには、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆さまのますますのご健勝と、今年一年が更なる発展と素晴らしい年になりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成26年 元旦